
真・恋姫無双 ～暗闇からの希望～

ふもっふ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫無双 ～暗闇からの希望～

【Nコード】

N9841Z

【作者名】

ふもっふ

【あらすじ】

闇からの守護者として生きた彼女の、転生ネタです。

不定期更新＆独断と偏見が多いですが、多目に見てくださいm(

ー)m

第壹話 「序章」(前書き)

改めて、よろしくデス
第壹話です。

第壱話 「序章」

一人の人間が、闇夜を歩いている。

外装を羽織っているの、顔は分からないが・・・

あえて、違う所を挙げるなら・・・

背中に、【大剣】を背負っているのだ。

『・・・主！来たようだぞ。』

不意に、背中の【大剣】から《声》が発せられる。

「主と呼ばれた者」は【大剣】を抜剣し、歩くのを止める。

ほぼ同じに、周囲には異形な出で立ちの【モノ】が現れる。

『今回も、気を抜くなよ？』

【大剣】から念を押され、「その者」は無言で頷くと【異形のモノ達】に立ち向かい、殲滅して行く。

どれだけ、時間が過ぎただろうか・・・

【大剣】を振り抜くと【異形のモノ達】は、全て無に帰って行く・

『・・・今回も、無事に終わったな。主よ。』

【大剣】は、ねぎらいの言葉をかけた。

「・・・ん。」

「その主」は、一言だけ答えると歩き始めた。

『しかし、主……。あの様な【物】を守るのも、難儀だな。』

「・・・仕方ない。仕事だ。」

【大剣】が困ったような感じで話すが、「その者」は割り切った口調で答えるだけである。

【ある鏡を、守る】・・・

「その者」は懷にある、古ぼけた鏡のような物を取り出す。

『仕事を請け負ってから、【奴ら】の遭遇率が高い……。沈静化してきているがな。気を付けよ、主。』

「分かってる・・・分かっているさ、くれない紅。」

懷に鏡を戻すと【大剣】・・・くれない紅に、主は告げた。

後に・・・

・【この鏡】による波乱に巻き込まれることを彼女は、まだ知らない・

第壱話 「序章」(後書き)

いかがでしょうか？

次回、転生するカンジです。

それでは次回も、よろしくお願いしますm(_____)m

第貳話「転生」(前書き)

遂に、転生します。

第式話「転生」

日本、某所・・・

駅近くにある居酒屋、【つかさ】・・・

獅子神麗奈は、そこで働いている。

「・・・また、来い。」

無愛想丸出しで彼女は最後の【お客】に告げ、のれんを下げる。

この口調と美貌のギャップで、今では常連の客が多く来店する。

「・・・麗々奈。」

困り顔で、彼女に話しかけたのは他でもない・・・

母であり女将の、【獅子神つかさ】である。

「・・・これ、仕方ない。」

「まあ、そうなんだけど・・・。」

麗奈は普段から、この様な口調で話す事が多いからか、つかさは気にしている素振りはない。

そう、彼女と麗奈は、実の親子ではないからだ。

「・・・じゃあ、帰るから。」

麗奈は、そう告げると【紅】と「鏡」の入ったバッグを手に取ると店を出た。

『・・・主よ。』

帰宅途中、【紅】が彼女に話しかけた。

『・・・妙に、静かだ。「奴ら」とも違う故、「アレ」にも気を付けよ。』

「・・・ん。了解。」

頷き、周囲を気にしながらバッグを確認する。

しかし次の瞬間、おもむろに「鏡」が光り出し吸い込まれるように彼女は消えてしまった。

第貳話「転生」(後書き)

いかがでしょうか？

次回、「第参話 流浪」

よろしくデス

第参話「流浪」（前書き）

遂に、転生しました。

第参話「流浪」

く山中、山道く

『……るじ。……主!』

【紅】の呼び掛けで、彼女……麗奈は、目を覚ます。

「……くれ……ない??」

『気が付かれたか……主。』

「此处……は?」

麗奈は立ち上がり、周囲を見渡す。

『……分らん。いずれにせよ、このままはマズいな。』

【紅】に促され、麗奈は下山することにしたのだが……

『……主。あれは村のようだが、様子がおかしい。』

「……ん。ついでだし、情報……集める。」

『了解だ。主……無茶は、するなよ。』

前方に見える村には、所々で煙が上がっている様で、麗奈は頷くと
【紅】を帯剣して村へ急いだ。

く村入口く

「・・・酷い。」

『どうやら、何かに襲われた後だったようだな。』

この村に来た時には、すでに遅く・・・

家々は無惨にも、ほとんど面影は無く・・・

生存者も、絶望的と思われたが・・・

「・・・さん。母さん。」

『！！・・・主、奥の方で人の気配だ。』

麗奈は【紅】を抜ける体勢で奥へ進んで行くと、事切れようとする女性と娘の姿を見つけた。

「・・・何が、あった？」

麗奈は無愛想ながらも、その母子に確認する。

娘は麗奈に驚きつつ・・・

「ぞ・・・賊です。食糧を奪い、後は・・・。」

「見た有り様・・・か。」

麗奈は、辺りを見渡す。

「父さん達も、やられちゃった・・・。」

娘も泣きながら、答える。

「・・・賊そいつら、何処？」

眉間にシワを寄せ、麗奈は問いたです。

「あちらの山にある、洞窟に・・・。」

「旅の人・・・お願いします。」

母子は賊の棲みかと思われる方角を示し、すがり付くように懇願した。

「・・・任された。」

頷いた麗奈は、賊の棲みかへと突き進む。

第参話「流浪」（後書き）

大晦日に、投稿完了出来た。

今回は、まだ未定です。

本年も、お疲れ様でした。

来年も、よろしく願いますm
——
（ m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9841z/>

真・恋姫無双 ～暗闇からの希望～

2011年12月31日19時48分発行